

障害を持つ方にも、情報をしっかりと届けるために ITユニバーサルデザイン評価展開事業

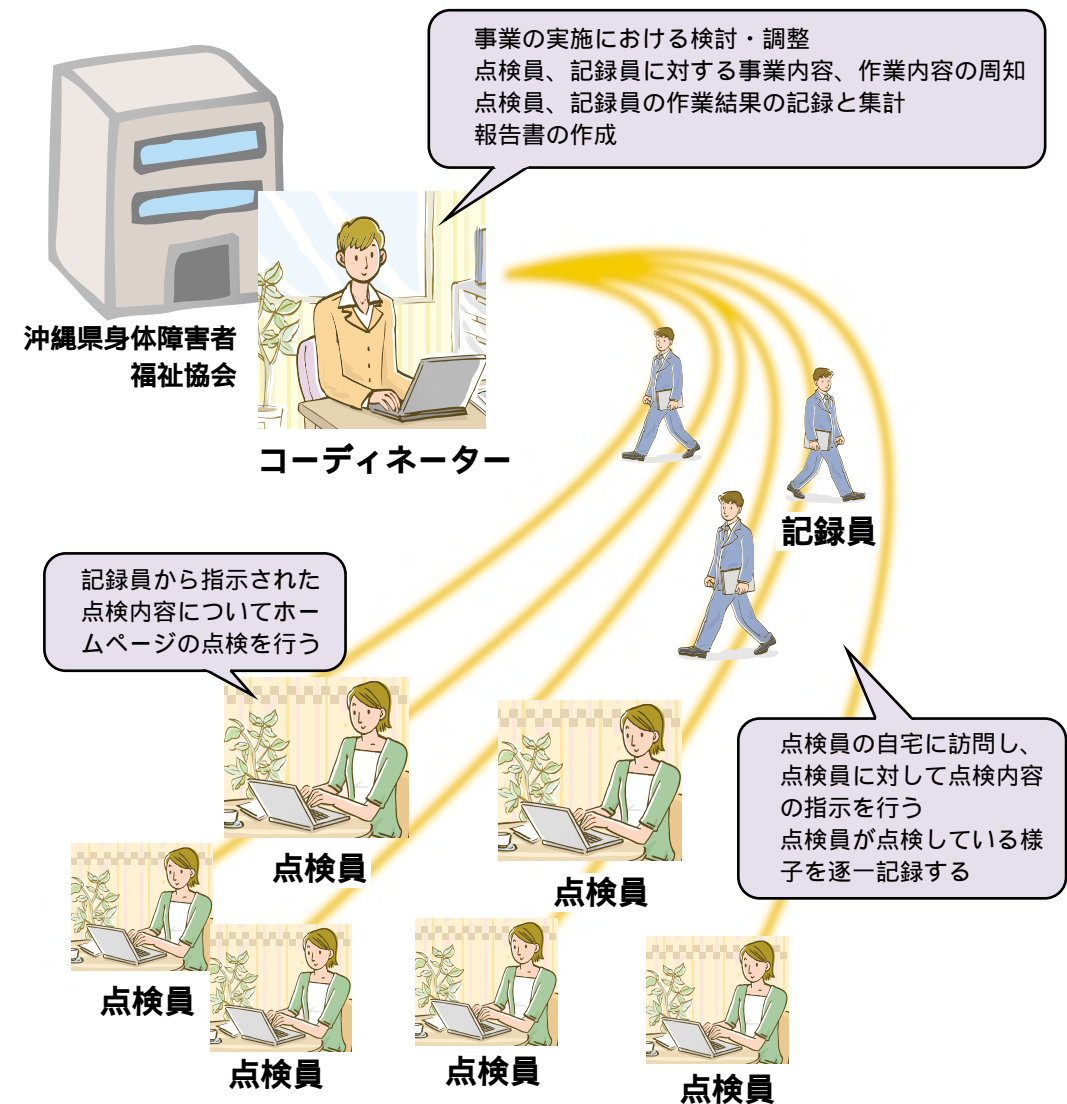
県や市町村等の公的機関は、県民のみならず、広く情報を提供する必要があります。近年では、インターネットの普及により、ホームページを活用して情報伝達を行っているところも増えてきました。その結果、これまで情報の入手が困難であった障害を持つ方にも、いろいろな情報が得やすくなりつつあります。

しかしながら、提供されている公的機関の情報は、各機関におけるホームページの作成及び運営方法に大きく依存しており、誰でも情報を得やすい状況にあるとは限りません。県では今年度、県内の公的機関のホームページについて、障害を持つ方（視覚・聴覚・肢体障害等）にとつてどのような支障があるか、利用しやすいかなどを点検する事業を行っています。この事業は、県が沖縄県身体障害者福祉協会に業務を委託し、福祉協会において一定期間雇用する障害を持つ方自身により、各機関のホームページを点検するというものです。

その結果は報告書として取りまとめられ、本県における公的機関の情報アクセシビリティ（情報の得易さ）を高めるために利用されることとなります。

その仕組みと、実際に事業を推進している方々の声を紹介します。

ITユニバーサルデザイン評価・展開事業のイメージ図



沖縄県身体障害者福祉協会

沖縄県身体障害者福祉協会は、身体障害者授産施設を運営し、さらに障害を持つ人も家庭や地域社会の構成員として普通に生活できるような社会作りの啓発と社会、経済、文化、スポーツ等の活動を通して生活の質の向上が図れるとともに、地域における自立と社会参加に向けての相談事業や「障害者社会参加統合推進事業」等を実施しています。



沖縄県身体障害者福祉協会
事業担当
新里 正秀さん

ホームページのバリアフリーを目指して

現在、十名の点検員と五名の記録員を採用して、ITユニバーサルデザインの評価事業を進めています。十名の内訳は、視覚に障害を持つ方が三名、聴覚に障害を持つ方が一名、そして上下肢機能に障害を持つ方が六名となっています。

障害を持つ方が不自由なく公共の情報を手に入れられる体制作り、言い換えれば「ホームページのバリアフリー」を目指し、この事業を進めています。



コーディネーター
山入端 依子さん

コーディネーターの役割は、主に記録員を通して各点検員から出された点検記録簿のまとめ役です。



【記録員】(写真右)
平良貴子さん

多くのホームページは飾り文字や動画を使ったりなど、凝った作りになっていますが、障害を持つ方にとっては必ずしも利用しやすいとは限りません。視覚に障害を持つ方だとホームページの閲覧は音声による読み上げソフトに頼ることになりますが、そのソフトが対応しきれない文字を使用しているページも少なくありません。障害者の視点に立った改善が求められています。

【点検員】(写真左)
下地美和子さん

私は三歳の時に眼を患いました。身の回りのことをこなせるくらいの視力はありますが、文字などはほとんど読めず、ホームページの閲覧も音声ソフトを利用しています。

この事業に参加してから四十以上の市町村のホームページを点検しましたが、施設等のアクセス方法で地図だけが乗っていたりすると、見えないので苦労しますね。そういった点がもう少し改善されてくればと思います。

お問い合わせ 県情報政策課 TEL.098-866-2036 FAX.098-867-2998